

1. はじめに

本取扱説明書では、Fig.1 に示す製品の回路確認用チェッカーの推奨形状、及び取扱方法・注意事項について示します。

なお、本取扱説明書を参考に回路確認用チェッカーの作成、及び運用いただく場合には、お手数ですが、弊社までご連絡いただきますようお願いいたします。

1.1 該当製品名称・型番及びチェッカー使用 SCR ハウジング対象表

製品名称	製品型番	SCR ハウジング	品 名
11DIA スクイブ コネクタ MK-II	1473139-1	1473368-1	11DIA スクイブ コネクタ MK-II プラグ ハウジング
	1473140-1		11DIA スクイブ コネクタ MK-II ロッキング ボタン
	353376-3		ソケットコンタクト
	353379-2		スクイブ コネクタ フェライト
11DIA スクイブ コネクタ スリムタイプ	1376688-1	1473368-1	11DIA スクイブ コネクタ スリムタイプ プラグ ハウジング
	1376688-3	1473368-3	11DIA スクイブ コネクタ スリムタイプ プラグ ハウジング
	1376689-1	1473368-3	11DIA スクイブ コネクタ スリムタイプ ロッキング ボタン
	353376-3		ソケットコンタクト
	353379-2		スクイブ コネクタ フェライト

Fig. 1

2. チェッカーの構成図

回路確認用チェッカーの構成は Fig.2 の様になります。

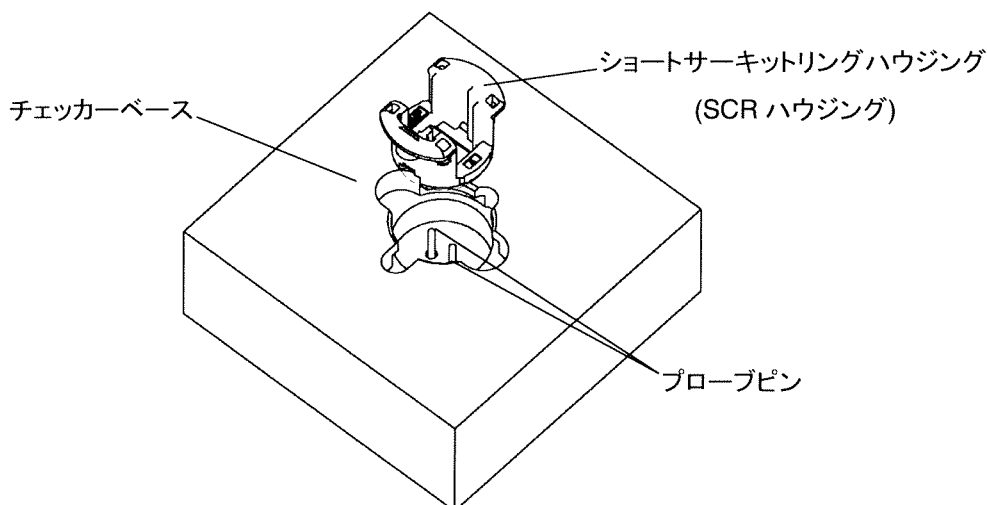


Fig. 2

3. チェッカー各部寸法

チェッカーを作成する際には、Fig.3に示す寸法にてチェッカーベースの作成、及びプローブピンの取付を実施願います。

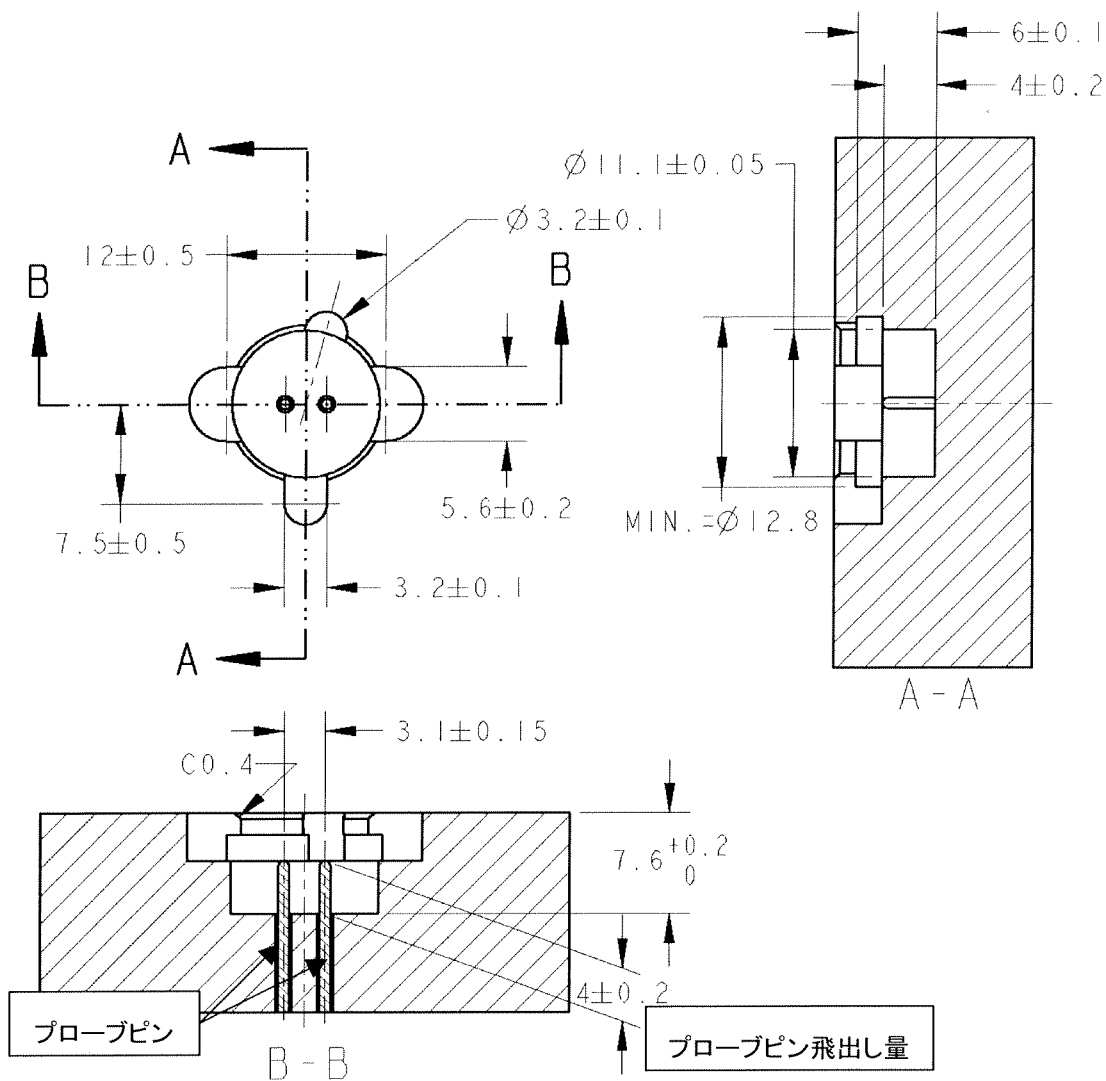


Fig.3

注意

1. チェッカーベースにはバリ等の発生が無いように加工願います。
2. プローブピンは、傾きが発生しないように装着願います。

4. プロブピンについて

「プロブピン」の選定に当っては、Fig.4に示す条件を満足する物をご使用願います。

項目	条件
1 先端形状	球形状
2 先端径	Φ0.8mm
3 先端部めっき	金めっき
4 先端部ストローク可能量	4mm 以上
5 接触圧	50g以下

Fig.4

なお、上記条件を満足するプロブピンとしては、

(株)サンケイエンジニアリング製 CP12-R SPL

があります。

注意

1. 先端形状は必ず「R形状」のプロブを必ず使用願います。R形状以外を使用された場合には、ハウジング・端子の変形等の発生原因となります。
2. 先端径が大きなプロブを使用された場合には、ハウジング・端子の変形等の発生原因となります。
3. 金めっき以外のプロブを使用された場合には、製品の接触不良等の発生原因となります。
4. 先端部ストローク量が少ないプロブを使用された場合には、ハウジング・端子の変形等の発生原因となります。
5. 接触圧が高いプロブを使用された場合には、ハウジング・端子の変形等の発生原因となります。

5. ショートサーキットリング・ハウジングについて

弊社品番: 1473368を Fig.5に示す形状を取り除いた後、ご使用願います。

※1473368には3種類の溝違い品を用意しています、ご使用いただく際には Fig.1を参照いただき、メスコネクタの突起位置にあった物を選定願います。

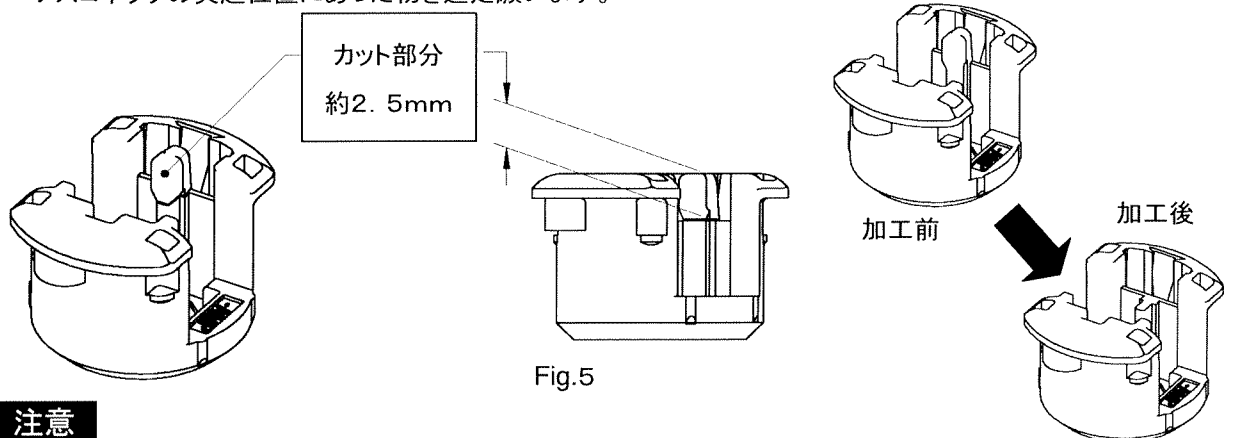


Fig.5

注意

1. 加工の際には、他の部分の変形・バリ等発生にご注意願います。
2. 未加工品を使用した場合には、ハウジング・ロッキングボタン変形の発生原因となります。

6. チェッカーベースへのショートサーキットリングハウジング装着

Fig.6に示すように、チェッカーベースに設けた溝と、ショートサーキットリングハウジングの突起が一致し、A 面が確実にチェッカーベースと接触するように装着願います。

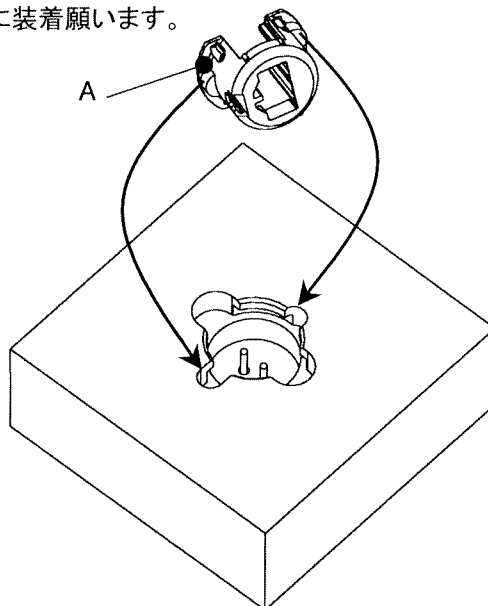


Fig.6

注意

1. ショートサーキットリングハウジングには方向性があります、装着の際には変形等にご注意願います。
2. ショートサーキットリングハウジングが正確に装着されていない場合には、ハウジング・端子の変形等の発生原因となります。

7. ショートサーキットリングハウジングの交換

ショートサーキットリングハウジングを交換する際には、Fig.7に示す部分を使用願います。

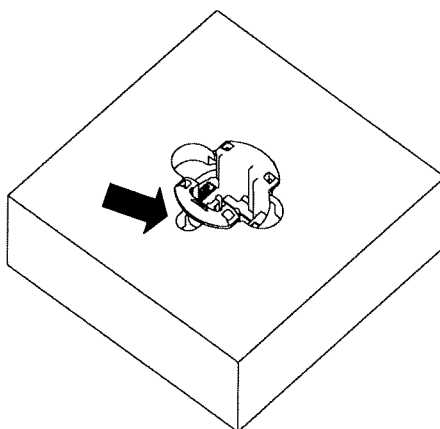


Fig.7

注意

1. ショートサーキットリングハウジングは、メスコネクタの嵌合回数が、500 回を目安として交換願います。
なお、上記回数以前にショートサーキットリングハウジングの変形等が発生した場合には、ハウジング・端子の変形等の発生原因となりますので、速やかに交換願います。
2. ショートサーキットリングハウジング交換の際には、プローブの変形等にご注意願います。

8. チェッカーの点検

回路確認作業を開始前には、最低限 Fig.8に示す項目の問題有無を点検願います。
 なお、この点検は始業前後及びショートサーキットリングハウジング交換時等に実施願います。

	項 目
1	チェッカーベースの変形有無
2	ショートサーキットリングハウジングの変形有無
3	ショートサーキットリングハウジングの装着状態
4	プローブの変形有無
5	プローブ先端の金めつき有無
6	プローブ先端の汚れ有無
7	プローブのストローク可動量・可動状態
8	プローブの飛出し量
9	プローブの位置ずれ
10	チェッカー内の異物等有無

Fig.8

注意

- 点検により不具合が発見された場合には、速やかに調整いただくと同時に点検実施前のハーネス完成品の不具合有無をご確認願います。
- プローブの位置ずれ確認には、Fig.9のようにプラグハウジングを用いて実施願います。
 - プラグハウジングの装着時が、プローブと干渉なく実施の可否。
 - 装着後のプラグハウジング正面から、プローブ先端が下図の様に確認の可否。

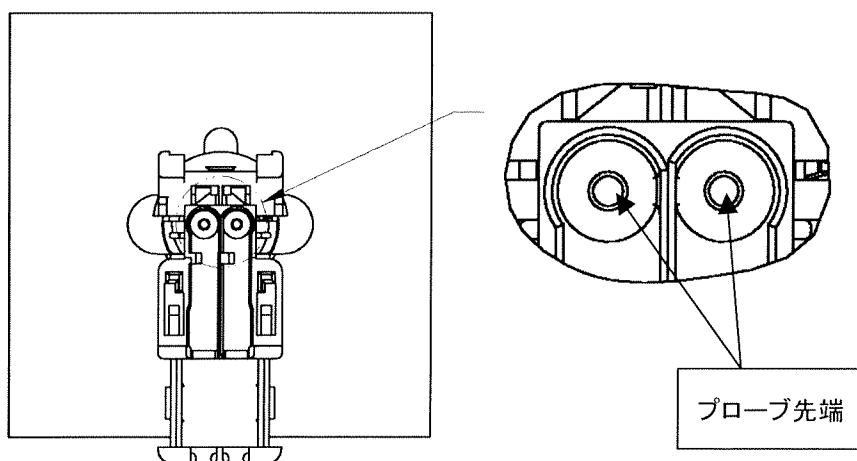


Fig.9

9. 回路確認作業時の注意事項

チェッカーを用いて回路確認を実施いただく際には、チェッカー・メスコネクタの変形発生等の原因となりますので、以下の点にご注意願います。

9.1 チェッカーへのコネクタ挿入作業

- 斜め方向から嵌合することなく、嵌合軸方向から真直ぐに行ってください。
- メスコネクタはチェッカーへ完全に嵌合してください。

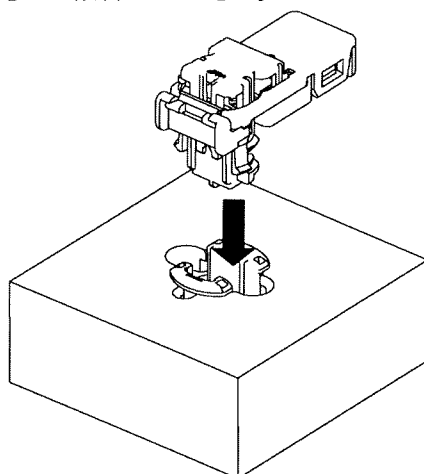


Fig.10

9.2 回路確認時

- メスコネクタに必要以上の荷重等の不可が掛からないようにご注意ください。

9.3 チェッカーからのコネクタ離脱作業

- 嵌合軸方向に真直ぐメスコネクタを抜いてください。

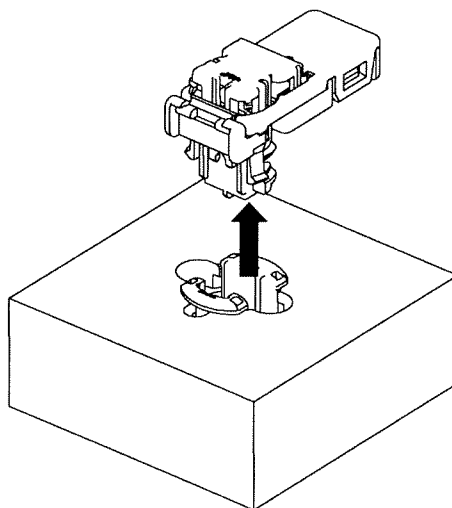


Fig.11